

NRIs Collaborative Session: グローバル公共財 のためのローカルデータガバナンス

人工知能(AI)とデータ駆動型技術が社会における重要な意思決定をますます形成する中で、**堅牢なデータガバナンスフレームワーク**は、公平性、説明責任、倫理を促進するために不可欠です。本セッションでは、そのようなフレームワークが**アルゴリズムの偏見を軽減し、責任ある意思決定を確保し**、AI システムが意図しない結果を引き起こした場合に**明確な説明責任**を確立する方法を探求します。

主要な議論と焦点

1. AI における公平性、説明責任、倫理の推進:

- アルゴリズムの偏見を軽減し、明確な説明責任メカニズムを確立するための実践的なアプローチが探求されます。
- EU の GDPR、ブラジルの LGPD、カナダのアルゴリズム影響評価フレームワークなど、成功したガバナンスモデルの具体例が検討され、その再現可能性が議論されます。

2. 公共の信頼構築とデータ管理:

- 信頼と透明性を育むための公共関与戦略に焦点が当てられます。
- 政府や企業が個人に対し、個人データの管理をより強化する必要性が議論されます。
- 世界の国の 15%しか包括的な個人データ保護法を制定していない(UNCTAD, 2024)という現状は、アクセス可能で理解しやすいデータ同意メカニズム開発の緊急性を浮き彫りにします。

3. オープンデータと地域に合わせたガバナンス:

- オープンデータイニシアチブが偏りのない公共情報を提供する役割と、ガバナンスプロセスを地域的および世界的文脈に合わせる課題について深く掘り下げます。
- 偏りのない公共データの促進、地域を越えたアクセシビリティの確保、およびデータ保護政策を地域的・世界的価値観に合わせるための戦略が含まれます。

4. マルチステークホルダーアプローチとデジタル主権:

- マルチステークホルダーアプローチが、技術変化に直面してもガバナンス構造が機敏であり

続けることをどのように保証できるか。

- デジタル主権をめぐる議論が、世界のデータガバナンスの未来をどのように再形成しているかについて検討します。
- マルチステークホルダーおよび制度的枠組みが、デジタルおよびデータ主権の重要性の高まりを考慮しつつ、新興技術にどのように適応できるかについて議論します。

共同主催者とセッション形式

本セッションは、以下の多様な国、地域、ユース IGF イニシアチブ(NRIs)の代表者によって共同開催されました。

- シンガポール IGF の Henry Wang 氏と Una Wang 氏
- IGF-USA の Judith Hellerstein 氏
- ブラジル IGF の Laurianne-Marie Schippers 氏と Vinicius W. O. Santos 氏
- ザンビア・ユース IGF の Levy Syanseke 氏
- ガンビア IGF の Poncelet Ileleji 氏
- ポルトガル IGF の Tiago Martins 氏
- コロンビア・ユース IGF の Umut Pajaro Velasquez 氏
- 日本 IGF の Shin Yamasaki 氏
- レバノン IGF の Zeina Bou Harb 氏
- ベナン・ユース IGF の Yao Amevi A. Sossou 氏
- コロンビア IGF の Martha Giraldo 氏
- アルゼンチン IGF の Agustina Ordonez 氏
- 北アフリカ IGF の Ahmed Farag 氏と Tijani Ben Jemaa 氏
- 西アフリカ IGF の Mary Uduma 氏
- エチオピア・ユース IGF の Saba Tiku 氏

パネリスト：

- Mr. Ahmed Farag, Officer at the National Telecom Regulatory Authority | North African IGF (Egypt)
- Ms. Una Wang, Data Sovereignty and Governance Expert, Founder and CEO for LingoAI | Singapore IGF (Singapore)
- Ms. Beatriz Costa Barbosa, Member of CGI.br board, Journalist and human rights specialist from USP | Brazil IGF (Brazil)
- Ms. Chelsea Horne, Data Protection Expert, American University | IGF-USA, (USA)
- Ms. Nancy Kanasa, Senior Data Officer, Digital Government & Information Delivery | Pacific IGF (Papua New Guinea)

セッションの流れ:

- Welcome by the moderator and introduction (5 min)
- Setting the stage by designated and endorsed speakers (20 min)
- Open floor discussion (20 min)
- Conclusion and closing (5 min)

現地モデレーター: Mr. Poncelet Ileleji, The Gambia IGF

オンラインモデレーター: Ms. Aicha Jeridi, Vice chair, North Africa IG

報告者: Mr. Yao Amevi B. Sossou from Benin Youth IGF

議論の要約

今回の IGF セッション「**地域におけるデータガバナンスとグローバルな公共財**」では、国別・地域インターネットガバナンスイニシアティブ(NRI)の代表者が集まり、議論を行いました。このセッションでは、AI や新興技術の時代において**データガバナンス**がますます重要になっていること、そしてプライバシーとデジタル上の信頼を確保し、データの悪用を防ぐための枠組みが必要であることが強調されました。

主要なテーマと提案は以下の通りです。

- **倫理的で人間中心のアプローチ**：ナンシー・カナサ氏（太平洋 IGF）は、太平洋諸島のような脆弱な地域が取り残されないよう、デジタル情報に対する政府の倫理的かつ人間中心のアプローチの重要性を強調しました。
- **開発のためのデータ管理と保護**：ベアトリス・コスタ・バルボサ氏（ブラジル IGF）は、国のデータを管理し、人権を尊重しつつ開発を促進するデータ処理を保証することの重要性を力説しました。彼女は、デジタル主権のために、TikTok や Meta のようなグローバル企業にのみ頼るのではなく、政府が**公共のデータインフラ**を構築するよう促しました。ブラジルのインターネット運営委員会やデータ保護評議会の経験は、市民社会が議論を促進し政策に影響を与えている事例として挙げられました。
- **分散型データ所有権**：シンガポール IGF のスピーカーは、グローバルサウスに対し、集中型プラットフォームから離れて**データ所有権**のための新しいプロトコルを採用するよう促しました。これにより、個人は独自のプロトコルを所有することで自身のデータを構築し、アクセスを管理し、さらにはデータを収益化できるようになり、地域に富をもたらし、データの価値がコミュニティ内に留まることを保証します。

- **柔軟で進化するガバナンス：** アフメド・ファラジ氏（北アフリカ IGF）は、データガバナンスの戦略的価値を強調し、エジプトが個人データ保護法を含む法的・制度的基盤を確立していることを指摘しました。彼は、ガバナンスの枠組みが**柔軟**であり、技術の進歩に継続的に適応する必要があることを強調しました。
- **マルチステークホルダー協力：** すべてのスピーカーが、効果的なデータガバナンスには政府、民間セクター、市民社会、技術コミュニティからの協調的な努力が必要であることを強調しました。
- **多言語主義とデータの包摂性：** ウナ・ワン氏（シンガポール IGF）は、デジタル時代において言語が取り残されるリスクを強調しました。彼女は、分散型プロトコルを通じて言語コミュニティが自身の言語データを**所有、管理、収益化**することを可能にする、**コミュニティ主導のボトムアップアプローチ**による多言語AIシステムの構築を提案し、データの主権と公正な報酬を確保することを目指しました。
- **ユーザーの権限強化とデータ利用許可：** チェルシー・ホーン氏（アメリカ IGF）は、ユーザーがデータ利用許可を理解し、管理しやすくするためのメカニズムについて議論しました。彼女は、ユーザーフレンドリーなインターフェース、詳細な同意オプション、ジャストインタイム通知、標準化された同意言語/アイコンを提案し、個人がデータを効果的に管理し、「**ダークパターン**」を避けるための支援を訴えました。
- **迅速に対応するデータガバナンスフレームワークの開発：** ベアトリス・コスタ・バルボサ氏（ブラジル IGF）は、デジタル政策におけるブラジルの長年の公共参加の伝統を共有し、地域の状況に合わせて調整されたデータ保護法（LGPD）を開発するためのマルチステークホルダーアプローチを強調しました。彼女は、国家データ保護当局が政策策定に市民社会や一般市民を巻き込むことの必要性を強調し、AIの規制枠組みを確立する取り組みに言及しました。
- **先住民データ主権と地域インフラ：** ナンシー・カナサ氏（太平洋 IGF）は、太平洋地域とグローバルサウスにおけるデータセンターの断片化と受動的なデータガバナンスの課題について述べました。彼女は、サイロを打破し、信頼と協力を促進し、国際標準を地域の文化的現実に適応させることによって、**先住民データ主権**を維持する、強靱で包摂的な枠組みを提唱しました。彼女は、デジタル主権を支えるための**地域データセンター**の極めて重要な必要性を強調しました。
- **地域に根差した行動への呼びかけ：** バングラデシュ、チャド、ベナンからの参加者は、アフリカにおける**グリーンデータセンター**の構築、グローバルな基準を地域の識字レベルや価値観に適応させること、データ保護に関する農村地域への啓発活動など、より地域に根差したデータガバナンスの必要性を改めて強調しました。彼らは、データの地域化がデジタル主権と国家開発のためにデータを活用する上で不可欠であると主張しました。

セッションは、NRI 内のマルチステークホルダー対話がこれらの課題に対処し、データガバナンスにおける国民の信頼と透明性を育むために不可欠であると強調して締めくくられました。